



しゃぶつ 写仏をしてみよう

常陸太田市では指定文化財となっている阿弥陀如来像が4つあります。仏像や造られた当時の流行などによって、お顔や服の表現などが変わってきます。写仏をしながら、お顔の違いに注目してみましょう。

写仏とは…

仏様のお姿を描き写すことを「写仏」といいます。下絵の上に薄い紙を乗せ、筆やペンなどでお姿を写しとります。心を静かにしてゆっくりと筆を運び仏様と向き合うことで、自分自身と向き合うことにつながります。

STEP1. 仏様を知る

市内の文化財の中には、阿弥陀如来、薬師如来、千手観音、不動明王などさまざまな仏様がいますが、実は仏様は大きく4つの種類に分けることができます。

如来 さとりを得た人、真理に到達した人という意味です。基本的に服に飾りなどをつけていません。



薬師如来▶

菩薩 さとりを得るために修行をしている途中の姿です。「観音」は観音菩薩のことです。



弥勒菩薩▶

天 仏教が生まれる前からインドで信じられてきた神様です。七福神の毘沙門天、大黒天、弁財天はともともインドの神様です。



帝釈天▶

明王 密教特有の像で、多くの顔や腕を持っています。やさしいだけでは救えない人々のために、怒った顔をして



不動明王▶

STEP2. 仏像を知る

① 仏像の名前をしてみる

指定の名称（名前）を見ると、仏像が造られた素材などが分かります。

【例】鉄造 阿弥陀如来 立像

材質 仏様の種類 仏像の姿勢。立ち姿は「立像」、座っている姿は「坐（座）像」です。

② お姿をしてみる

仏様の種類によって、着ている服や飾り、手の形（印）などが変わってきます。また、仏様は人間を超えた存在です。私たちとは違う特徴がたくさんあるので、観察してみましょう。

→「仏様のお顔」については、常陸太田市の文化財「来迎院の文化財」を読んでみよう！

郷土資料館梅津会館 常陸太田市西二町 2186 TEL：0294-72-3201

できあがった作品やつくっている様子を「#我が家のうちミュージアム」「#常陸太田市」をつけて SNS にアップしてみてください！みなさんの投稿お待ちしております。

STEP3. 写仏をする ※お顔の違いを^{くら}べるために、^{おお}大きさをそろえています。



木造阿弥陀如来坐像（来迎院） 県指定

像の高さ 158.3 ㌢。螺髪が細かく、目が彫りだけで表現されているなどから、平安時代末期の作と考えられます。



木造阿弥陀如来立像（青蓮寺） 県指定

像の高さ 53.5 ㌢。鎌倉時代後期の作で、整った顔立ちや流れるような服のしわなど、とても美しい像です。



鉄造阿弥陀如来立像（中染阿弥陀堂） 国指定

像の高さ 164.2 ㌢。弘長4年（1264・鎌倉時代）の作。鉄仏は作るのが難しいため、螺髪が大きいなど、一部の表現が簡略化されています。



銅造阿弥陀如来坐像（梅照院） 市指定

像の高さ 38.7 ㌢。室町時代中期の作で、低い肉髻と張りのある髪などに当時の作風が見られます。

《アレンジのすゝめ》

♪いろいろなペンでなぞってみる 色のついたペンを使って、カラフルに仕上げてみてはいかが？

♪色をつけてみる 現在私たちが目にする仏像の多くは色がついていませんが、製作当時にはあざやかな色がついていたと思われます。自分でなぞった仏様に、自由に色をぬってみましょう。